重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	住宅地・工業地・商業地・農用地など目的別に区分された土地利用がされ、計画的で機能的で快適なまちづくりが進められている	
施策名	総合的な土地利用を推進し良好な都市環境をつくる	No.41

年度	平成28年度
責任部長	まちづくり部長
主担当課長	都市計画課長
関係課	建築指導課、農業振興課、産業基盤整備室

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標		指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
			H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
			H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
目的別に土地利用がなされ、住環境が快適であると思う人の割合（%）		↗	35.4	36.7	39.9	44.1	44.2	43.8	40.0
			43.8	44.7	45.5	44.1	50.0		44.9
市街化調整区域内の農地から宅地に転用された面積（ha）		↘	17.2	21.8	9.5	15.2	11.1	18.6	15.2
			18.6	15.1	18.7	19.9	21.9		14.1
用途地域内における建物用途の混在率 ＊5年毎の調査のため	①工業地域（%）	↘	73.0	74.0	—*	—*	—*	—*	72.3
			—*	—*	76.2	—*	—*		71.5
	②準工業地域（%）		80.0	82.0	—*	—*	—*	—*	78.8
			—*	—*	85.4	—*	—*		77.4

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

・一宮市都市計画法に基づく開発行為等の許可の基準に関する条例の施行により、市街化調整区域の指定区域で企業誘致が進んだ。
・駅前ビル、市役所本庁舎の建替えなど、中心市街地及びその周辺における都市機能の更新が進み、一宮駅前の路線価が上昇した。
・一宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定され、人口減少克服と地域活性化の取り組みが始まった。
・ゲリラ豪雨(短時間強雨)が増加傾向にある。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	B 停滞	市街化調整区域内の農地転用面積が増えているのは、企業誘致が進み工場等が立地したことによる。用途地域内における建物用途の混在率は、工場から住居等への土地利用転換が進み上昇している。一方で、目的別に土地利用がなされ、住環境が快適であると思う人の割合は、目標値を大きく超えたことから、B評価とする。

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
都市計画決定(変更)事務	土地区画整理事業化推進事業		
建築指導・開発許可等事務	組合施行土地区画事業に対する支援事業		
農地転用事務	再開発事業		
農業振興地域整備事業	産業基盤整備事業		
	苅安賀駅付近鉄道高架化事業に伴う周辺整備事業		

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果は、計画的な土地利用について、基準によるものと事業の推進によるものに分けており、問題はない。まちづくり指標にある農地の転用や建物用途の転換については、法の規定の範囲で個々の事情により行われるため、行政による直接のコントロールは難しい。
次年度の改善計画	各事務及び事業を見直した結果、それぞれが重要なまちづくりの課題に対して必要なものであった。次年度においても、各法令に従って進めるとともに、第7次総合計画の策定状況を注視しながら、適正な土地利用が図られるよう検討していく。

＊＊＊